

事業報告書

平成26年度
(第2期事業年度)

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

地方独立行政法人徳島県鳴門病院

I 基本情報(法人・病院の概要)

- 1 名称 地方独立行政法人徳島県鳴門病院
- 2 所在地 徳島県鳴門市撫養町黒崎字小谷32番
- 3 法人設立年月日 平成25年4月1日
- 4 設立団体 徳島県
- 5 代表者の役職氏名 理事長 武田吉弘
- 6 役員の状況

役員名	区分	氏名	備考
理事長	常勤	武田 吉弘	前 徳島県医療健康総局長
副理事長	非常勤	三木 章男	前 日本赤十字社徳島県支部事務局長
理事	常勤	荒瀬 誠治	病院長
理事	常勤	邊見 達彦	副院長
理事	常勤	藤本 浩史	副院長
理事	非常勤	島田 清	弁護士
理事	非常勤	濱尾 重忠	県経済成長戦略アドバイザー
監事	非常勤	島内 保彦	弁護士
監事	非常勤	原 孝仁	公認会計士

- 7 組織図 別紙のとおり

- 8 職員数(平成26年4月1日現在) 524人

(単位:人)

	医師	看護師等	医療技術職	事務職	その他	合計
常勤	44	282	71	42	17	456
非常勤	7	19	6	17	19	68
合計	51	301	77	59	36	524

9 設置する病院の概要

- 1) 病院名称 徳島県鳴門病院
- 2) 所在地 徳島県鳴門市撫養町黒崎字小谷32番
- 3) 許可病床数 一般病床 307床(うち人間ドック6床)
- 4) 主な役割及び機能
 - 救急告示病院 ○災害拠点病院 ○臨床研修病院
 - 地域医療支援病院 ○開放型病院
- 5) 診療科目: 14診療科 (平成26年4月1日現在)
内科/循環器内科/小児科/外科/整形外科/脳神経外科/皮膚科/
耳鼻いんこう科/眼科/産婦人科/泌尿器科/放射線科/麻酔科/
形成外科
- 6) 併設施設
 - 健康管理センター ○訪問看護ステーション
 - 居宅介護支援センター ○附属看護専門学校

10 理念

「私達は皆様に信頼される病院づくりを目指し、安全な医療を親切に提供することに努めます」

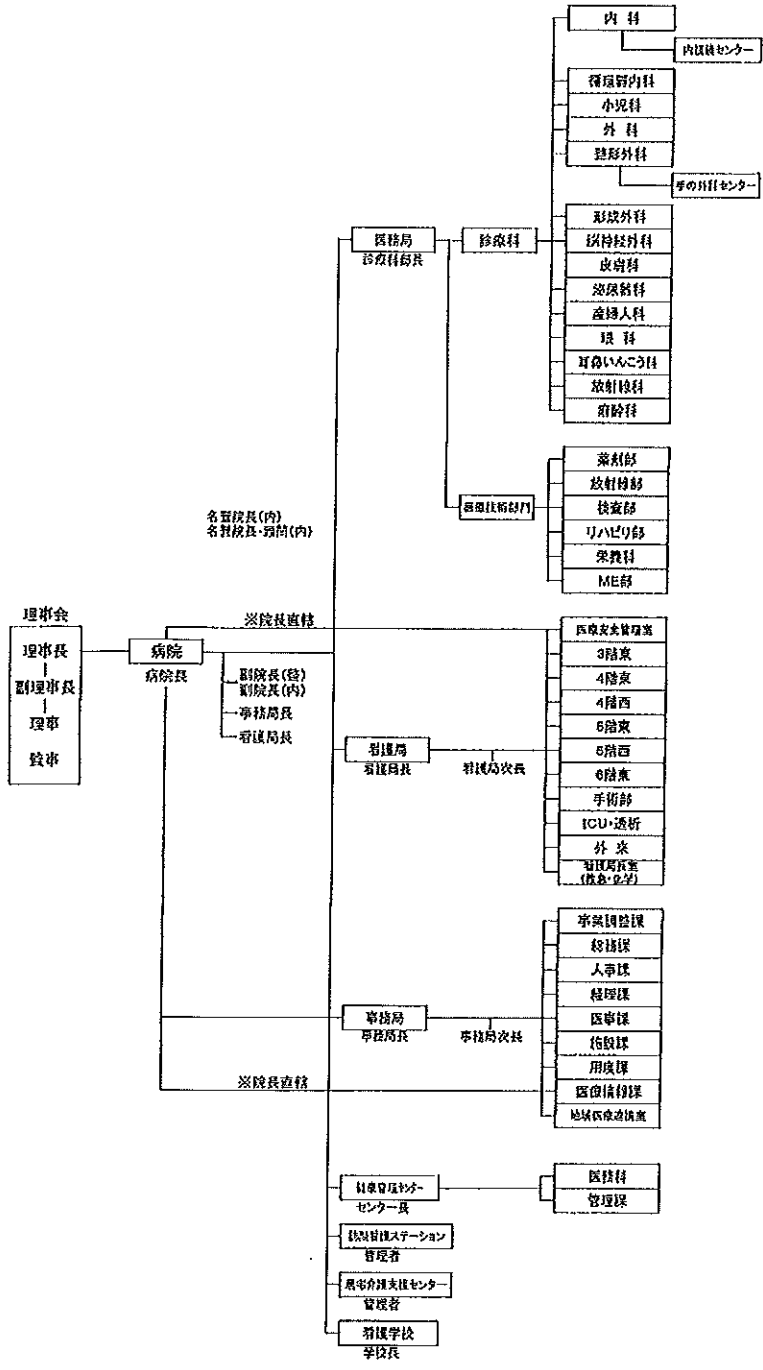
11 基本方針・基本姿勢

- ・医療の提供にあたっては 全組織力を結集して医療事故ゼロを目標に努めます
- ・患者さま一人ひとりの権利を尊重し 最適な医療サービスを的確に提供します
- ・安心して医療を受けていただける 安全で快適な環境づくりをします
- ・地域医療の発展に向け 基幹病院としての役割を正確に果たします
- ・積極的に健診事業に取り組み 地域の健康づくりに寄与します
- ・人間性豊かな医療人育成のため いきいきと仕事ができる職場づくりをします
- ・組織総合力を高めるべく互いを尊重し合い 患者さま本位に変革する知的集団を目指します

別表

地方独立行政法人徳島県鳴門病院組織図

平成26年4月1日現在



Ⅱ 当該事業年度における業務について

1 対象期間

平成26年4月1日から平成27年3月31日までの1年間

2 業務内容

1) 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

(1) 診療事業

① 質の高い医療の提供

- ・ 外来患者延数は110,004人となった。

入院では、新規入院患者5,770人を受け入れ、平均在院日数13.3日で、入院患者延数は76,612人となった。

	H26年度	H25年度
外来患者延数	110,004人	110,970人
新規外来患者数	14,630人	14,482人

	H26年度	H25年度
入院患者延数	76,612人	78,052人
新規入院患者数	5,770人	5,401人
平均在院日数	13.3日	14.5日

- ・ 最適で確実な治療を提供するため、各種診療ガイドライン等に基づくクリティカルパスを活用した。

	H26年度	H25年度
クリティカルパス数(入院)	56パス	56パス

- ・ 徳島大学と連携し、脊椎疾患治療において当院の特徴的な医療づくりを推進した。

	H26年度	H25年度
脊椎疾患関係手術	363件	7件

② 患者・住民サービスの向上

- ・ 給食メニューの改善に取り組むとともに、適温で食事を提供できる温冷配膳車を3月に導入し、患者サービスの向上を図った。
- ・ 患者相談体制の充実を図り、発病を契機に生じる様々な問題の相談に取り組んだ。

	H26年度	H25年度
患者相談室 相談件数	17,116件	13,666件

- ・ 患者等利用者の意見を受けて、売店の営業時間(土・日・祝日)の拡大や電子マネー対応、品揃えの充実が行われ、利用者の利便性が向上した。

	変更後	変更前
営業時間(土・日・祝日)	8:30~17:00	8:30~12:00

③ 地域の医療機関との連携

- ・ 地域医療機関との連携に努め、紹介率が上昇した。

	H26年度	H25年度
紹介率	65.3%	54.3%
逆紹介率	82.8%	65.4%

- ・ 地域包括ケア、在宅医療介護の推進に向けて、地域関係機関と連携し、在宅復帰支援を進めた。

	H26年度	H25年度
在宅復帰支援件数	200件	155件

- ・ 「かかりつけ医」との連携強化を図るため、地域医療連携システムの参加医療機関の拡大に努めた。

	H26年度	H25年度
地域医療連携システム参加医療機関数	29機関	2機関

④ 救急医療の強化

- 消防と定期的な連絡会を開催するなど、消防との緊密な連携を図り、救急搬送患者の円滑な受入に努め、救急要請患者受入率が向上した。

	H26年度	H25年度
地域救急要請患者受入率	93.7%	92.0%
救急患者受入数	6,629人	6,505人
救急搬送患者受入数	2,288人	2,102人
救急外来患者数	4,341人	4,403人

⑤ がん医療の充実

- がん診療連携推進病院として、専門医及び認定看護師を確保し、がん医療の充実に努めた。
- がん化学療法看護認定看護師を配置した外来化学療法室で、がん化学療法及び指導・相談を行った。

	H26年度	H25年度
外来化学療法延件数	920件	801件

	H26年度	H25年度
放射線治療延件数	1,458件	2,051件

⑥ 生活習慣病に対する医療の促進

- 糖尿病専門医による専門外来、糖尿病ケア認定看護師によるフットケア外来、糖尿病教室を実施した。

専門外来、フットケア外来 : 毎週月曜日

糖尿病教室 : 3ヶ月で5回のシリーズを年4回

	H26年度	H25年度
フットケア外来受診者延数	67件	60件

- 徳島県の糖尿病サービスクラスター形成モデル事業として、血管内皮機能検査装置(FMD)を導入し、平成27年1月から、糖尿病の早期発見、生活習慣の改善を目的

とする「糖尿病予防検診」を開始した。

⑦ 産科医療や小児医療の充実

- ・ 関係科の支援のもと、無痛分娩や新生児管理を行った。

	H26 年度	H25 年度
分娩数 ()内は無痛分娩数	293件(40件)	281件(38件)
新生児管理件数	29件	21件

- ・ 助産師稼働者不足のなか助産師外来・母乳外来を維持した。

	H26 年度	H25 年度
助産師外来・母乳外来受診者延数	168件	516件

- ・ 小児救急輪番制が廃止されるなか、日曜日の小児救急体制を維持した。

	H26 年度	H25 年度
小児救急患者受入数	510件	353件

(2) 地域支援事業

① 地域医療への支援

- ・ 地域の医療機関との連携を強化し、高度医療機器の共同利用を促進した。

	H26 年度	H25 年度
高度医療機器共同利用数	951件	1, 242件

- ・ 地元医師会等と連携し、地域の医療従事者の研修会等を実施した。

② 地域への社会的貢献

- ・ 玄関フロアにボランティア(看護師)による「健康相談ブース」を設置し、健康相談、血圧測定などを実施した。
- ・ 広報誌「鳴門病院だより」に地域住民の健康に関する記事を掲載するほか、鳴門市医療フォーラム、出前講座、一日まちの保健室、ケーブルテレビ出演等を行い、健康に対する啓発に努めた。

(3) 災害時における医療救護

① 医療救護活動の拠点機能

- ・ 8月に「鳴門市防災対策医療救護所におけるトリアージタグ等に関する勉強会」を開催した。9月にDMATが鳴門市総合防災訓練に参加し、トリアージ指導等を行った。
- ・ 9月、当院において大規模地震発生時の対策訓練を行った。

② 他地域における医療救護への協力

- ・ 1月、DMATが四国ブロックDMAT訓練に参加した。

③ 新型インフルエンザ等の感染症対策

- ・ 感染管理認定看護師を配置した感染管理室を設け、院内感染防止体制の充実を図った。

(4) 教育研修事業

① 質の高い医師の養成

- ・ 高度な医療を提供できる医師の養成のため、医療に関する学会等への参加を推進するとともに、専門医等の取得を促進した。

	H26年度	H25年度
医師の医学会等参加件数	139件	138件
専門医・認定医新規取得件数	3件	4件

- ・ 医学生への広報活動を積極的に行い、初期臨床研修医の受入に努めた。

	H26年度	H25年度
初期臨床研修医数(基幹型)	3名	3名

② 看護師等に対する教育

- ・ 質の高い医療を提供するため、看護師等の専門性の高い資格・認定取得等を促進した。

主な資格・認定取得等

糖尿病看護認定看護師	1名
感染管理認定看護師(教育課程修了)	1名
認定看護管理者(セカンドレベル教育課程修了)	4名
エキスパート助産師	1名

③ 看護専門学校の充実強化

- ・ 病院と一体的運営の利点を活かした教育を実施し、卒業生の国家試験合格率は100%となった。

	H26年度	H25年度
看護師国家試験合格率	100%	100%
生徒数	110名	108名
3年生	33名	38名
2年生	36名	34名
1年生	41名	36名

- ・ 専任教員の計画的な養成を行った。
専任教員養成講習会修了 1名

(5) 調査研究事業

① 診療等の情報の活用

- ・ 患者の年齢階層別の疾患分類等のデータを作成し、ホームページに掲載した。

2) 業務運営の改善及び効率化

(1) 業務運営体制

① 効率的な組織体制の確立

- ・ 運営方針の進捗状況を四半期ごとに取りまとめ、運営会議に報告するとともに、「職員Web」に掲載し、全職員に進捗状況を周知、情報を共有した。

② 診療体制、人員配置の弾力的運用

- ・ 医療クレークを増員し、医師の負担軽減を図った。
医師事務作業補助者体制 30:1

(2) 業務運営方法

① 多様な契約方法の導入

- ・ 競争入札による透明性や公平性の確保に努めるとともに、複数年契約により費用の節減や事務の効率化に努めた。

② 収入の確保

- ・ 最適医療を実践し医業収入を確保するため、診療報酬制度等に関する職員説明会や指導を行うとともに、診療報酬の請求のチェック強化に努めた。

[入院収益]

	H26年度	H25年度
入院収益	4,197,072千円	4,168,577千円
入院患者延数	76,612人	78,052人
新規入院患者数	5,770人	5,401人
平均在院日数	13.3日	14.5日
病床稼働率	75.2%	76.6%
入院診療単価	54,464円	53,173円

[外来収益]

	H26年度	H25年度
外来収益	1,397,041千円	1,374,451千円
外来患者延数	110,004人	110,970人
外来診療単価	12,355円	12,021円

③ 費用の抑制

- ・ 県立病院との医薬品等の共同購入を行った。

	H26年度	H25年度
共同購入医薬品目割合	91.8%	91.0%

※ H25年度は全社連との共同購入

- ・ 後発医薬品への切り替えを進めた。

	H26年度	H25年度(後)
後発医薬品使用量割合	64.7%	34.6%